

議会からの主な意見と市の考え(案)

令和4年9月及び12月議会での主な意見など	意見に対する市の考え(案)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどりの大空間など市のめざすまちづくりを実現するには、サンプラザ1号館が移転することと合わせて②街区での南口駅前広場の整備は必須である。</li> </ul>	<p>サンプラザ1号館みどり会の提案も踏まえ、今般、事業性や地権者の生活再建、ウォーカブルに資する駅前広場の形状・配置などを含めた再整備の可能性について調査を行い、その内容を踏まえ枚方市駅周辺再整備基本計画(以下「再整備基本計画」という)改訂版(素案)で事業手法を見直した。今後、地権者勉強会などに取り組み、④街区の公園・広場と連続した南口駅前広場とすることで、みどりの大空間の実現をめざす考え。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市駅周辺という立地を生かし、誰もがワクワクできる特徴的なまちづくりを実現するには、子どもたちが中心に在るべきで科学館などの施設が必要ではないか。</li> </ul>	<p>再整備基本計画に示す「まちづくりの方向性」やサウンディング調査の提案などを基に、今後、④街区における民間活力導入エリア(以下「民活エリア」という)の土地利用の事業者選定などの具体化を図るにあたり、子どもたちが楽しみながら学ぶことができるコンテンツの導入可能性についても検討していく。</p>
<p>まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに市駅周辺の大型店舗の撤退があったが、④街区では実現性や将来見通しが不足しており、長期的な賑わいを創出できるようにすべき。</li> </ul>	<p>④街区の民活エリアの土地利用にあたり、持続的なまちの賑わいに寄与する事業者選定を行う必要がある。 選定にあたっては、公募の要件や選定方法、契約内容及び都市計画の活用のほか、事業者などと連携したまちの価値を共に高めるエリアマネジメントの取り組みなど、他市の先行事例を参考とするとともにUR都市機構の支援を受けながら検討する考え。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・④街区の新たな道路によってみどりの大空間が分断されることから、歩行者用道路として、公園・広場と一体的な利用が出来るようにすべき。</li> <li>・公園・広場の使われ方などがもっと具体的にならないと、道路の役割や線形、幅員などの構造も決まらない。</li> </ul>	<p>新たな道路によってみどりの大空間と民活エリアの複合施設が分断されることなく、一体的なまちづくりを実現していく必要があり、今後、④⑤街区の取り組みを進めていく中で、賑わい創出や回遊性の向上、景観などの観点から新たな道路の役割や線形、幅員構成などについて先進事例なども参考としながら検討を進め、具体化を図っていく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業的な賑わいが継続した収益性を期待できないなら新庁舎を⑤街区へ移す理由がない。一方で、みどりの大空間を中心とした文化的なまちをめざすことには期待する。</li> </ul>	<p>④街区については、ニッパークや広場を⑤街区方面に拡充して賑わいと憩い・安らぎの空間として公園・広場機能を整備し、ウォーカブル機能の中心として、シンボリックな「みどりの大空間」を確保することにより、まちの魅力を高める。あわせて、民活エリアなどにおける賑わいの創出に寄与する商業機能に加え、子育て支援や教育・医療などの生活サポート機能などの複合施設、様々な住居ニーズに対応した居住機能の導入などを検討する考え。</p>

令和4年9月及び12月議会での主な意見など	意見に対する市の考え(案)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タワーマンションは、多くの区分所有者が発生するとともに、空き家問題にも通ずる。</li> <li>・高額な販売価格により若い世代の購入意欲に疑問であり、いかに若い世代に居住してもらい活気あるまちを作り上げる効果的な手法の検討が必要。</li> <li>・タワーマンションは、コンパクトシティの観点から高度利用を行うことで、快適な住環境を実現するための効果的な手法であり、土地の価値向上に繋がる。</li> </ul>	<p>空き家が生じた場合の対応については、その時点の制度などを活用し、市として必要な対策を考えていく。</p> <p>各街区の特性に応じて若年・子育て・高齢者世代など様々な世代やニーズに対応した分譲・賃貸の誘導を検討する。</p> <p>④街区の複合施設に子育て支援施設や教育、医療などの利便性と快適性の向上に繋がる施設や体験型の文化芸術や、公園・広場と連携した健康増進などの市民交流や賑わいを促進する施設、多様な働き方が可能なシェアオフィスやインキュベーション施設などとあわせて、住居機能を誘導することで、各世代が必要なサービスを身近なところで享受できる生活サポート機能が充実したまちづくりをめざす考え。</p> <p>その事業者公募や選定方法の検討に際しては、課題を踏まえUR都市機構の支援を受けながら様々な観点から行う考え。</p>
<p>まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・④⑤街区においては民間ノウハウを最大限活用してまちの魅力高める複合施設と連携した公園・広場の活用や川原町商店街などへ効果が波及することで、試算以上の効果が得られるよう取り組むべき。</li> <li>・市駅から⑤街区までペDESTリアンデッキによる回遊性を向上させるとともに、創出される賑わいを周辺の川原町商店街にも波及させていくことは大変重要である。</li> <li>・⑤街区で新庁舎を整備していくなら、宮之阪など地元の見解をしっかりと聞きながら、回遊性を向上させ周辺地域にも人の流れが生まれるよう検討していくべき。</li> </ul>	<p>再整備に取り組むことで創出した賑わいを川原町や宮之阪地区などの周辺にも広げ、市駅周辺全体の活性化につなげていく取り組みが必要と考えている。例えば、まちの価値を高めるエリアマネジメントの一環として、川原町商店街などの地域や新たな住民などと連携しながら持続的な取り組みを行うことや、民活エリアの高度利用に伴い敷地内に歩行者動線や広場などを設置して、人の流れを誘導するなど、公民連携しながら再整備区域との一体的な活性化に取り組む考え。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デッキの機能は限定的で、歩いても楽しくないので自然に避けているように思う。基本計画で示すコンセプトから言うとデッキを歩かせることはナンセンス。人のいる気配が生き生きと感じられるような視界が広がっているまちの光景に人は惹かれる。</li> </ul>	<p>④⑤街区ではウォークブル機能の向上に取り組み、多くの人が集い、多様な交流が促進されるまちづくりをめざしている。</p> <p>そのため、公園・広場を拡充してウォークブル機能の中心となるみどりの大空間を形成や回遊性、防災性を高めるペDESTリアンデッキの整備などに取り組む考え。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・めざすまちの概念や考え方は非常に大切で、しっかりとしたグランドデザインの設定も必要。市民生活の向上に向けて必要なソフト事業の展開など具体的なコンセプトを着実に実行すべき。</li> </ul>	<p>再整備基本計画に基づき、④⑤街区の特長を活かし公園・広場機能の拡充や魅力ある施設の誘導、エリアマネジメントなどを着実に実現していくことで、市民をはじめ様々な人がワクワクし幸福度が高まるまちづくりを進める考え。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・④街区の区域拡大を公表するまでに地権者等の状況や意向を把握せず進めるのは、事業を本当に実現させようとしているのか疑問。</li> </ul>	<p>④街区のニッペパーク岡東中央や広場を⑤街区方面に拡大して、賑わいと憩い・安らぎの空間を整備し、ウォークブル機能の中心となるシンボリックな「みどりの大空間」を創出することにより、まちの魅力を高めるため④街区の区域を拡大していく考え。その実現に向けて、地権者勉強会などに取り組んでおり、引き続き、地権者や関係機関などと連携して、段階的かつ着実に進めていく考え。</p>

令和4年9月及び12月議会での主な意見など		意見に対する市の考え(案)
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・④⑤街区の公園・広場を魅力的な空間とするため、その実現には信頼関係が構築できる真のパートナーが必要である。</li> </ul>	<p>④⑤街区は、既成市街地であり事業期間が長期に亘り、かつ高度な技術力や事業資金の確保などが必要であることから、UR都市機構が事業者となる機構施行が最も有効な事業手法と考えており、具体的な協議の開始に係る協力要請を令和5年1月に行った。引き続き、まちづくりの実現に向けて連携強化を図る考え。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新庁舎の位置が⑤街区ありきになっているが、9月定例会月議会で否決されたことを受けて再検討するべき。</li> <li>・様々な意見はあるが、行政として対応すべきまちづくりの課題を整理しながら、再整備基本計画やまちづくりの考え方の実現を着実に進めるべき。</li> <li>・再整備を進めていく上で、どこかで決めていく必要がある。一方で、計画の変更点の経緯や意図が分かりにくい部分があるが、議会意見に真摯に向き合い着実な計画進行を行うべき。</li> </ul>	<p>市役所の位置に関する条例の一部改正の提案に際し、頂いた市民説明の不足や提案のタイミングを見直すべきなどの意見を含め、厳しい結果を真摯に受け止めており、令和4年12月から「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」、「新庁舎整備基本計画策定の考え方(案)」などの説明動画の配信や全ての校区コミュニティ協議会の意向を踏まえ、適宜、説明会等を実施している。</p> <p>一方で、新庁舎整備と関連する「③街区の財産取得契約」や「④⑤街区の環境影響評価を含む補正予算」が可決されたことから、市が示すまちづくりの実現に向けて、引き続き取り議会の意見などを伺いながら取り組む。</p>
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Webアンケート内容は、あまりにも恣意的であり、新庁舎の位置条例案を否決した議決を否定しており、やり直すべき。</li> <li>・一部の携帯キャリアだけでは、市民間の不公平が生じるので実施すべきでない。</li> </ul>	<p>多くの方からのご意見を頂くことが出来るWebアンケート調査は、再整備を進めるにあたり、効果的な手法と考えている。</p>
アリーナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サウンディング調査の結果として突然アリーナが出てきたが、なぜアリーナなのかを議会と議論しながら検討すべき。また、アリーナに限定することなく多方面から幅広く考え、本市経済に大きく寄与する民間施設等を含め検討する必要がある。</li> </ul>	<p>「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」で示した庁舎機能をさらに高める施設については、再整備基本計画におけるまちづくりの方向性を踏まえ、市民ニーズやサウンディング調査での提案、他市庁舎合築施設の事例などを参考に、候補施設の抽出と比較検証を行っており、引き続き市議会のご意見も踏まえながら、検討を進める考え。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナを作るのか、作らないのかなど未定のものばかりなのに、事業だけがどんどん進んでいる。このような拙速なやり方はやめるべき。</li> </ul>	<p>まちづくりの実現に向けて、準備段階として現時点で取り組むことのできる業務について着実に進める考え。</p>
マネリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わずかな予算では大きな成果は得られないと感じる。本気で取り組むならしっかり予算措置を講じていくべき。</li> </ul>	<p>地域が主体的にまちづくりに関わり、取り組む機運を段階的に醸成していく必要がある。今後も引き続き、UR都市機構とも連携してエリアマネジメントの実現に向けた仕組みや機運の醸成に取り組んでいく考え。</p>
北口駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北口駅前広場では、車両同士が交差する箇所が複数あり危険で、自家用車優先でなく公共交通を優先とするべき。</li> </ul>	<p>北口駅前広場のレイアウトは、バスと一般車を分けるとともに、高架下にバスロータリーを配置することで、一般車両の誤進入の抑制を図る考え。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北口駅前広場の運用面の課題については、利用者の利便性や安全性の向上、円滑な公共交通の運用など、地元の公共交通事業者と早い段階で丁寧な意見交換等を行うべき。</li> </ul>	<p>北口駅前広場やそれに合わせて行う高架下の改良、路線バスの再編などについて公共交通事業者などと協力して進めている。運営面についても、再開発組合と連携しながら、公共交通事業者や交通管理者等と協議を行い、調整する考え。</p>

令和4年9月及び12月議会での主な意見など		意見に対する市の考え(案)
行財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の不測の事象に備えた財政調整基金を再整備に使い込んでしまうと、市民生活の向上に向けた施策が出来ない。市民生活に目を向け丁寧な行政運営を行うことが市民の幸福度に繋がる。</li> <li>・大型開発を進めると市民サービスが後回しになる。新庁舎を市有地に建替える見直しを行い、必要な市民サービスの予算確保をすべき。</li> </ul>	<p>財政調整基金については、健全な財政状況を維持し、安定した市民サービスを提供していく上で、一定規模維持する必要があると認識している。そのため、毎年作成している長期財政の見通しの中においても推移見込みをお示しており、将来に向け一定規模を維持していけるか注視していく必要があると考えている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期財政に関する不安・懸念が払拭されるまでに至っていないので、多くの人に納得頂けるよう国の力も借りながら計画を練るべき。</li> </ul>	<p>総概算事業や市負担額については、④街区の区域拡大や工事費高騰などを見込み、②街区も含めた財政シミュレーションの結果、財源確保の見通しは立っている。引き続き、長期財政の見通しに基づき、適宜、市の財政状況を確認しながら、国費活用などを行い、着実に事業の推進に取り組む考え。</p>
市民説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再整備基本計画などの内容について、市民への周知が足りていないことから、市内各地域で住民説明会を開催するなど、市民周知を図るべき。</li> <li>・ワークショップは2回しか実施されておらず、「案」の段階から検討資料を市民に公表・説明するなど、まちづくりは準備段階から住民参加で進めていくべき。</li> </ul>	<p>再整備基本計画や新庁舎基本構想の内容について、市ホームページでの説明動画の配信などと合せて、令和4年12月から「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」、「新庁舎整備基本計画策定の考え方(案)」などの説明動画の配信や全ての校区コミュニティ協議会の意向を踏まえ、適宜、説明会等を実施している。今後は、再整備基本計画の改訂に際し、パブリックコメントや説明会を実施していく考え。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設による賑わいを創っているまちの方が成功している。商業施設で賑わいを創出するのか、公共施設で創出のかは、市ではなく市民が決めるべき。</li> </ul>	<p>「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」などの作成に際しては、ワークショップなど多くの市民に参加いただき意見を聞き、実現性を高めるためにサウンディング調査を実施した。今後、再整備基本計画及び同まちづくりの考え方(案)などの実現に向けて、民間ノウハウを活用するなど公民連携した取り組みを進める考え。</p>
位置条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新庁舎については、施設規模や内容、費用など何も決まっていない。しっかりとした計画を策定し予算議決を得て、区画整理事業に着手する際に条例改正をすればよい。</li> </ul>	<p>新庁舎整備については、「枚方市新庁舎整備基本構想」や「新庁舎整備基本計画策定の考え方(案)」に基づき約2万5千㎡以下へ規模を縮減するとともに、「行かなくてもよい庁舎」の実現を目指す。このため、ファイリングシステムの導入や③街区の(仮称)市民窓口との連携、DX推進プロジェクトチームの検討などを踏まえるとともに、スマート自治体を見据えた執務スペースの精査など、よりコンパクトな新庁舎の実現に向けて取り組みを進め、令和7年度以降に策定予定の「枚方市新庁舎整備基本計画」に目指すべき新庁舎の具体的な内容を反映していく考え。</p> <p>市役所の位置に関する条例の一部改正については、引き続き、議会の意見を伺いながら取り組む考え。</p>
新庁舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市庁舎は老朽化していることから、大規模災害を想定し早期の建替えが必要であり、④街区で新庁舎整備を進めるべき。⑤街区では、老朽化した枚方消防署と訓練施設、及び枚方警察署の整備を行うべき。</li> </ul>	<p>新庁舎整備については、めざすまちの姿やその波及効果、防災・減災など、まちづくりの総合的な観点から評価を行い、⑤街区での実現に向けて取り組む考え。</p> <p>⑤街区の土地利用は、安全・安心の拠点の形成に向け、消防組合と連携しながら救急ステーションの設置を含め検討していく。</p>

令和4年9月及び12月議会での主な意見など		意見に対する市の考え(案)
新庁舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新庁舎整備では、単に国機関も反映させるだけのハコモノ行政でなく、新庁舎が稼ぐ力となり、その上でコンパクトな庁舎を検討していくことが肝要。</li> </ul>	DXの推進によるサービス向上と業務の効率化を行い、新庁舎規模のスリム化に繋げていく考え。また、単なる事務所に留まらない様々な可能性があることを認識しており、民間の発想や創意工夫を取り入れる視点として、PFI手法を含む民間活力の導入などを検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、新庁舎の位置条例を再提案するまでに、DX化を踏まえて、縦割り行政を打破し市役所機能を強化しながら、地域拠点化を含む行政機能のあり方など本市独自の先進的な発信を示すべき。</li> </ul>	「行かなくてもよい庁舎」の実現を目指し、行政手続きの電子化を進めるとともに、庁内横断的に若手職員で組織するDX推進プロジェクトチームにおける検討状況や令和5年度の北部リーフにおける相談業務のオンライン対応の試行検証を踏まえながら、③街区における「(仮称)市民窓口」のあり方について検討を進め、新庁舎の機能や地域拠点のあり方などについて示していく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政運営に支障をきたすことのないよう分散している庁舎機能を可能な限り集約すべき。新庁舎のコンパクト化を図っても分散していれば本末転倒である。・今後、人口増加は見込めないことから集約された新庁舎が後々分散化することのないよう的確な対応をすべき。</li> </ul>	新庁舎整備に際し、公共施設のマネジメントなどの観点を踏まえ、分散している庁舎機能を出来る限り集約するとともに、DXの推進による「行かなくてもよい庁舎」の実現に向けて、将来のスマート自治体を見据えた執務スペースの精査や窓口業務のワンストップ化などを図り、よりコンパクトな新庁舎の実現をめざす考え。
駅前行政サービス再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民窓口や生涯学習施設、健康、子育てなど、各種相談窓口が詰め込まれている。6階へはエスカレーターもなく前代未聞であり全てが中途半端な施設の整備をやめるべき。</li> </ul>	本再編では、複合施設のメリットを活かして効果的・効率的な施設となるよう、5階は明るく開放的な交流ロビーを中心に生涯学習交流センターと図書館の一体利用や市民窓口に来られた方も楽しんで頂ける空間を創出する考え。6階は、乳幼児健診など、高齢者をはじめ妊娠期から子育て期に至るサービスを一体となって提供できる拠点を整備することで、行政サービスの質や市民の利便性などの向上を図っていく考え。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現保健センターでの乳幼児健診では、駐車場利用を無料としてきた経過を踏まえて協議に臨むべき。</li> </ul>	本市の他の施設での状況も踏まえながら、当該駐車場の取り扱いについて、今後、再開発組合と協議を進める。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新築建物で市として新たな試みを含む取り組みの実現であり、什器レイアウトを中心とした雰囲気づくりに関して、専門家の意見を取り入れながら進めるべき。</li> </ul>	執務室については、フリーアドレスの導入を検討しており、公民連携プラットホームを活用し、民間事業者からのレイアウト案の提案を受け、本庁舎において試行導入を行っている。引き続き、執務スペースの効果的な活用を検討を行っていく。